

〔 1 〕 国語の学習

現代の国語

教科	国語	単位数	2	年次・学科	1 年次 生産・総合
使用教科書	『現代の国語』（数研出版）			教育課程	三・四修制
副教材等	『級別漢字学習 7 級～2 級』東京法令出版				

「現代の国語」で学ぶこと

現代の国語は、評論や実用的な文章を取り扱った教材を通して、人生や社会、自然や世界、歴史や文化などについて知識を得たり、考えを深めたりする科目です。

実社会で用いられている言葉や文章を知ること、自分の心を豊かにし、自分を通して社会について考えられるようになれば、現代の国語を学んだ意味があります。

「現代の国語」でつけたい力（わかります、やります）

- ①声に出して正しく読むことができます。
- ②評論を読んで、作者の考えがわかります。
- ③作文や意見文を書いて、自分の考えを的確に相手に伝えることができます。
- ④話し合いをして、相手の考えや意見を理解することができます。
- ⑤漢字を読み、書くことができます。

1 学習の計画（どのような内容を、どの時期に学ぶのかを含む）

	学習内容（単元名）	学習のねらい
1 学期	・「書けない日々」	声に出して正しく読むことができる。 要旨がわかる。
2 学期	・文章トレーニング	文や段落の関係を知り、工夫して文章が書ける。 主張に一貫性のある文章が書ける。
3 学期	・「デジタルメディア時代の複製」	筆者の考えがわかる。 実生活での体験と照らし合わせて、文章にまとめることができる。

2 評価の観点・方法（及び年間の評定）

評価は次の3つの観点から行います

知識・技能	授業中の小テスト、定期考査
思考・判断・表現	意見の発表、発言、ノートやプリントなどの提出物、定期考査
主体的に学習に取り組む態度	授業中の様子、意見の発表、発言

1 年間の評価は、1～3 学期の年間を通じて、上記の内容を総合的に判断して決定します。

言語文化

教科	国語	単位数	2	年次・学科	1 年次 生産・総合
使用教科書	『言語文化』（数研出版）			教育課程	三修制
副教材等	『級別漢字学習 7 級～2 級』東京法令出版				

「言語文化」で学ぶこと

言語文化は、近現代の文学・古文・漢文の教材を通して、人生や社会、自然や世界、歴史や文化などについて知識を得たり、考えを深めたりする科目です。

日本で古来、用いられている言葉や文章、また今使われているそれらを知ることで、自分の心を豊かにし、自分を通して社会について考えられるようになれば、言語文化を学んだ意味があります。

「言語文化」でつきたい力（わかります、やります）

- ①声に出して正しく読むことができます。
- ②小説を読んで、あらすじがわかります。
- ③詩歌を鑑賞し、情景や作者の思いを想像できます。
- ④古文・漢文を読んで、あらすじがわかります。
- ⑤漢字を読み、書くことができます。

1 学習の計画（どのような内容を、どの時期に学ぶのかを含む）

	学習内容（単元名）	学習のねらい
1 学期	『宇治拾遺物語』 『羅生門』	声に出して正しく読むことができる。 あらすじがわかる。 近現代の文章と古文の文章の違いがわかる。
2 学期	- 漢文入門 『竹取物語』 『城の崎にて』	漢文の仕組みがわかる。 古文の口語訳ができる。 登場人物に共感できる。
3 学期	- 漢詩 『山月記』	正しく朗読できる。 漢詩のきまりがわかる。 登場人物の心情を読み取れる。

2 評価の観点・方法（及び年間の評定）

評価は次の3つの観点から行います

知識・技能	授業中の小テスト、定期考査
思考・判断・表現	意見の発表、発言、ノートやプリントなどの提出物、考査
主体的に学習に取り組む態度	授業中の様子、意見の発表、発言

1 年間の評価は、1～3学期の年間を通じて、上記の内容を総合的に判断して決定します。

〔 2 〕 地理歴史の学習

地理総合

教科	地理・歴史	単位数	3	年次・学科	一年次
使用教科書	高等学校 新地理総合 （帝国書院）			教育課程	三修制
副教材等	「標準高等地図」（帝国書院）など				

「地理総合」で学ぶこと（科目の概要と到達目標）

- ・地図に関する知識を基礎から学び理解します。
- ・世界の地形や気候を学び、世界各地の生活文化への理解を深めます。
- ・「環境問題」「資源・エネルギー問題」「人口問題」など地球的課題について考えます。
- ・日本の自然環境や防災について学び、持続可能な地域づくりの取り組みを学びます

「地理総合」でつきたい力（わかります、やります）

- ①地図記号や縮尺、さまざまな地図の種類と特徴などの基礎的知識を身につけます。
- ②世界の地形の成り立ちや世界各地の気候の特徴を学び、世界各地の生活文化の背景を理解することができる。
- ③地球的課題の原因や取り組みについて考え、自分の行動を振り返ることができる。
- ④私たちの生活圏の地理的課題について考えることができる。

「地理総合」で大切なこと（学び方や取組の姿勢など）

- ・基本的なことはおぼえなければなりません。大変かもしれませんが「分かる楽しさ、知る喜び」のために必要です。2年生以降で学ぶ歴史科目の基礎となります。
- ・データの処理や地図作業などを通して、自分の頭で考え、事柄を確認し、問題点を明らかにしていく取り組み。

1 学習の計画（どのような内容を、どの時期に学ぶのかを含む）

	学習内容（単元名）	学習のねらい
1 学期	地図でとらえる現代社会	・地図から情報を読み取るために地図に関する地租知識を学ぶ。 ・世界の国家や日本の位置や領域、国家間の結びつきを理解する。
2 学期	国際理解と国際協力	・世界の生活文化の多様性を学び国際理解や国際協力の大切さを学び、地球的課題について考える
3 学期	持続可能な地域づくりと私たち	・日本の自然環境と防災について学び、私たちの地域づくりを考える

2 評価の観点・方法（及び年間の評定）

評価は次の4つの観点から行います。

知識・技能	定期考査、レポート
思考・判断・表現	意見発表や発問に対する応答、定期考査
主体的に学習に取り組む態度	授業態度、出席状況、ノート提出等

1年間の評価は1～3学期の年間を通じて、上記の内容を総合的に判断して決定します。

〔 3 〕 数学の学習

数 学 I

教科	数 学	単位数	3	年次	1 年次
使用教科書	「改訂版 新高校の数学 I」(数研)			教育課程	三・四修制
副教材等	計算プリント				

「数学 I」で学ぶこと(科目の概要と到達目標)

- ・正の数、負の数の計算と、式の計算を復習し身につけます。
- ・平方根の計算、実数、1次方程式と2次方程式の解き方を学びます。
- ・2年次生で1次不等式、2次不等式、2次関数、三角比を学びます。

「数学 I」でつきたい力(わかります、やります)

- ①正の数、負の数のかけ算、足し算ができます。
- ②式の展開、因数分解ができます。
- ③平方根の計算ができます。
- ④方程式を解くことができます。
- ⑤文章題を解くことができます。

「数学 I」で大切なこと(学び方や取組の姿勢など)

- ・数学では暗記することはほんの少しです。ほんの少しの計算規則をうまく使って計算します。したがってまず第一に、先生がこうした規則の中身や使い方を説明しているときは、しっかり聴いて分かるようにしなければなりません。
- ・しかし、こうした規則は実際に自分自身で何度も計算練習をしないと使えません。ですから第二に、計算練習のときは集中してできるだけたくさん問題を解くように頑張らなければいけません。
- ・実社会では計算は式で問われるとは限りません。書き言葉や話し言葉で問われることもあります。ですから第三に、言葉で書かれたり言われたりしたことを式で表して計算できるように考えなければなりません。

1 1年生の数学で学ぶこと(どのような内容を、どの時期に学ぶのかを含む)

	学習内容(单元名)	学習のねらい
1 学期	正負の整数のかけ算、足し算の復習 整式の加法、減法、実数倍、乗法 因数分解	高校数学の基礎的計算ができる 式の展開、因数分解ができる 文章題を解くことができる
2 学期	因数分解の公式、整数、小数、分数 、有理数、無理数、実数、平方根	展開、因数分解の公式を使うことができる 平方根の計算ができる 文章題を解くことができる
3 学期	1次方程式、2次方程式、	移項、因数分解を用い解を求められる x に値を代入し y の値を求めることができる 文章題を解くことができる

2 評価の観点・方法(及び年間の評定)

評価は次の3つの観点から行います

知識・技能	意見発表や発問に対する応答、定期考査
思考・判断・表現	意見発表や発問に対する応答、定期考査
主体的に学習に取り組む態度	授業態度、出席状況、ノート提出

1年間の評価は、1～3学期の年間を通じて、上記の内容を総合的に判断して決定します。

〔４〕理科の学習

生 物 基 礎

教科	理 科	単位数	3	年次・学科	1 年次
使用教科書	新編 生物基礎（数研出版）			教育課程	三修制
副教材等					

「生物基礎」で学ぶこと（科目の概要と到達目標）

- ・細胞、生命の連続性、遺伝、など生物に共通した特徴を学びます。その後、ヒトの代謝や体内環境の維持を学び、生活を見つめる視点を養います。
- ・身の回りの生物など、自然に興味・関心を持ち、自然環境を大切にしていける心を養います。

「生物基礎」でつきたい力（わかります、できます）

- ・地球には、さまざまな動植物が生活していること〈生物の多様性〉がわかります。
- ・生物は、みな細胞からできており、生命活動を行っていることが分かります。
- ・遺伝には規則性があります。その遺伝の法則がわかります。
- ・「生命」について自分なりの考えを持ち、生活を見つめる視点ができます。

「生物基礎」で大切なこと（学び方や取り組みの姿勢など）

- ・授業に積極的に取り組んで自然の仕組みが理解できると、周囲への興味・関心が生じて、自分で学ぶ意識と知識が身につきます。
- ・自分で考え、問題解決に取り組む姿勢を大切にします。

1 学習の計画（どのような内容を、どの時期に学ぶのかを含む）

	学習内容（単元名）	学習のねらい
1 学期	・生態系 ・生物の特徴	・生物全体を見て、生物どうしの関係とバランスについて学びます。 ・生物は多様な種類があつて多様な生活をしているが、共通点があることを理解します。
2 学期	・遺伝子とそのはたらき	・遺伝子とは何か。DNAの構造はどのようなものかを学習します。また、簡単な遺伝の法則を理解します。
3 学期	・生物の体内環境の維持	・ヒトの体内環境を維持するしくみや免疫を学習して、健康な生活を送る手がかりにします。

2 評価の観点・方法（及び年間の評定）

評価は次の3つの観点から行います

知識・技能	発表や発問に対する応答
思考・判断・表現	定期考査 スケッチ画
主体的に学習に取り組む態度	発表や発問に対する応答 授業態度

1 年間の評価は、1～3 学期の年間を通じて、上記の内容を総合的に判断して決定します。

〔５〕保健体育の学習

体 育

教科	保健体育	単位数	3	年次・学科	1年次
使用教科書	「最新高等保健体育改訂版」（大修館）			教育課程	三・四修制
副教材等	なし				

「体育」で学ぶこと

人間は、生まれながらにして運動（体を動かす）したいという欲求をもっています。そこで、様々な運動に取り組みながら自分自身の体と向き合い、自分のことをより深く知るきっかけとしてもらいたいと思います。運動技能を高め、運動することの楽しさや喜びを味わうとともに、体力を高め、健康・安全に注意しながら、仲間とお互いに協力し、責任を果たす態度を身につけることを目指しましょう。

「体育」でつけたい力（わかります、やります5項目）

- ①準備運動として、ラジオ体操第一がひとりでできます。
- ②集団行動の基本的な行動様式ができます。
*姿勢 *方向転換 *集合、整頓、開列 *歩行進 *足踏み
- ③新体力テストで各種目3点以上、総合得点では31点以上とることができます。
握力：23・17kg 上体起こし：16・11回 長座体前屈：28・30cm 反復横とび：37・32回 持久走：8分19秒・6分14秒 50m走：9.0・10.3秒 立ち幅とび：170・132cm ハンドボール投げ：16・10m
- ④バレーボールのサーブ及びサーブレシーブの技能を高めることができます。
- ⑤バスケットボールのドリブルシュートをスムーズに打つことができます。

「体育」で大切なこと（学び方や取組の姿勢など）

- ・うまくなるコツは、説明を真剣に聞き、アドバイス等を素直に聞き入れることです。
- ・やらされるのではなく、自分から進んで取り組むことが楽しさへつながります。
- ・服装は、学校指定の体操服（靴）です。指輪等の装飾品は着けてはいけません。
- ・チャイムと同時に始まるので遅れないでください。
- ・貴重品の管理は、しっかりと行ってください。

1 学習の計画（どのような内容を、どの時期に学ぶのかを含む）

	学習内容（単元名）	学習のねらい
1学期	「体育」授業について 体育理論 体づくり運動 球技Ⅰ バレーボール・ソフトボール	・体育授業の意義や内容、評価を理解する。 ・運動の心地よさを味わい、自分に適した運動を工夫する。 ・種目の特性を理解し、個人やチームの能力に応じて課題をみつけ、工夫して技能、体力を高める。
2学期	体育理論 球技Ⅱ バスケットボール・卓球 長距離走	・ゲーム等を通じてその種目の楽しさを味わいながら個人やチームの課題を見つけ、練習を工夫する。 ・3kmロード走計時による自己の限界への挑戦。
3学期	体育理論 球技Ⅲ バドミントン	・種目の特性を理解し、個人やチームの能力に応じて課題をみつけ、工夫して技能、体力を高める。 ・ゲーム等を通じてその種目の楽しさを味わいながら個人やチームの課題を見つけ、練習を工夫する。

2 評価の観点・方法（及び年間の評価）

評価は次の3つの観点から行います。

知識・技能	授業の取り組み観察、ペーパーテストの分析 ゲーム・計時・スキルテストの結果分析
思考・判断・表現	授業の取り組み観察、課題への取り組み姿勢
主体的に学習に取り組む態度	授業態度、取り組み、出席状況、服装

1年間の評価は、1～3学期の年間を通じて、上記の内容を総合的に判断して決定します。

保 健

教科	保健体育	単位数	1	年次・学科	1 年次
使用教科書	「最新高等保健体育」（大修館）			教育課程	三・四修制
副教材等	授業内で配布されるプリント				

「保健」で学ぶこと

- ・ 個人生活や社会生活における、心身の健康や安全について理解します。
- ・ 健康について総合的な認識を深め、ヘルスプロモーションの考え方を生かしながら、生涯を通じて生活行動や環境を改善していく実践力を育成します。

「保健」でつけたい力（わかります、やります）

- ① 健康・安全についての理解を深めることができます。
- ② 健康で過ごすために必要な事柄を具体的にあげることができます。
- ③ 薬物乱用、生活習慣病などの危険性と意味がわかります。
- ④ 感染症について、その意味と予防法がわかります。
- ⑤ 応急手当の意義とその基本について、認識・実践することができます。

「保健」で大切なこと（学び方や取組の姿勢など）

- ・ 1 単位の授業ですから、毎時間を大切に、教科書・配布されるプリントをファイルに綴じ、授業内容をしっかり記録しておいてください。
- ・ 授業開始時刻には遅れず、私語を慎み、積極的に授業に参加してください。
- ・ 健康全般に興味を持ち、情報を収集し自分の意見が言えるようにしてください。

1 学習の計画（どのような内容を、どの時期に学ぶのかを含む）

	学習内容（単元名）	学習のねらい
1 学期	・ 保健の授業について 1 単元 現代社会と健康 1) 健康の考え方 2) 健康の保持増進と疾病予防	・ 保健学習の意義や内容、評価について理解する ・ 日本の健康水準 ・ 現代社会の健康要因 ・ ヘルスプロモーション ・ 生活習慣病とその予防 ・ 食事、運動、休養と健康 ・ 喫煙、飲酒、薬物乱用と健康 ・ 感染症とその予防 ・ 性感染症とその予防
2 学期	3) 精神の健康 4) 交通安全	・ 欲求と適応機制 ・ 心身の相関とストレス ・ 心の健康のために ・ 交通事故の現状と要因 ・ 交通事故を防ぐために
3 学期	5) 応急手当	・ 応急手当の意義とその基本 ・ 日常的な応急手当 ・ 心肺蘇生法の原理とおこない方

2 評価の観点・方法（及び年間の評定）

評価は次の3つの観点から行います。

知識・技能	授業の取り組み、定期考査
思考・判断・表現	授業の取り組み観察、課題への取り組み
主体的に学習に取り組む態度	授業態度、取り組み、出席状況、ファイル提出

1 年間の評価は、1～3 学期の年間を通じて、上記の内容を総合的に判断して決定します。

〔 6 〕 英語の学習

論理・表現Ⅰ

教科	外国語	単位数	2	年次・学科	1 年次
使用教科書	「MY WAY Logic and ExpressionⅠ」（三省堂）			教育課程	三・四修制
副教材等	プリントなど				

「コミュニケーション英語基礎」で学ぶこと（科目の概要と到達目標）

・言語や文化に対する理解を深め、コミュニケーションを図ろうとする態度を養うとともに、論理的な思考力を養い、論理の展開や表現の方法を工夫し、伝える能力を養う。

「論理・表現Ⅰ」でつきたい力（わかります、やります）

- ①アルファベットを順番に言え、個別に認識できます。
- ②ローマ字を表記し、読むことができます。
- ③月・曜日・天気や数字を英語で言えます。
- ④基礎的な英文の意味を理解し、読んだり話したりできます。

「論理・表現Ⅰ」で大切なこと（学び方や取組の姿勢など）

- ・人の話をよく聞き、声に出して読んだり何度も繰り返し書いたりすることで、英語の基礎的な力を身に付けます。
- ・ペアワークやグループワークなどを取り入れ、仲間と協力して学習を進めます。
- ・毎時間の学習をプリントにより確認します。

1 学習の計画（どのような内容を、どの時期に学ぶのかを含む）

	学習内容（单元名）	学習のねらい
1 学期	L.1 Let's Talk about Ourselves L.2 School Life L.3 The Arts L.4 Food and Culture L.5 Welcome to Our Town	L.1 be 動詞、一般動詞の現在形 L.2 be 動詞、一般動詞の過去形 L.3 未来表現 L.4 現在完了形 現在完了進行形 L.5 助動詞 受動態
2 学期	L.6 Traveling Abroad L.7 Sports L.8 Everyday Technology L.9 Take Care	L.6 不定詞 L.7 動名詞 分詞 L.8 比較 L.9 関係代名詞
3 学期	L.10 SDGs---Take Action! Basic Skills パラグラフライティング スピーチ プレゼンテーション ディスカッション ディベート	L.10 関係副詞 仮定法

2 評価の観点・方法（及び年間の評定）

知識・技能	授業中の小テスト、定期考査
思考・判断・表現	意見の発表、発言、ノートやプリントなどの提出物、考査
主体的に学習に取り組む態度	授業中の様子、意見の発表

1 年間の評価は、1～3学期の年間を通じて、上記の内容を総合的に判断して決定します。

〔 7 〕 家庭科の学習

家庭基礎

教科	家 庭	単位数	2	年次・学科	1 年次・生産科学科
使用教科書	「未来へつなぐ家庭基礎365」（教育図書）			教育課程	三・四修制
副教材等	学習プリント				

家庭基礎で学ぶこと（科目の概要と到達目標）

- ・ 家族や生活の営みを人とのかかわりの中でとらえ、家族や家庭生活の在り方、乳幼児と高齢者の生活と福祉、家族の健康と衣食住、消費生活と環境などに関する基礎的・基本的な知識と技術を学びます。
- ・ 男女が協力して家庭生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を身につけます。

「家庭基礎」でつきたい力（わかります。できます。やります。）

- ①自分の生活を振り返り、見直すことができます。
- ②家族の一員として、家庭内の役割を担うことができます。
- ③学習内容を自分の生活に活かし、実践することができます。
- ④将来の生活について考えることができます。

家庭基礎で大切なこと（学び方や取組の姿勢など）

家庭科の学習は、知識の暗記や頭の中だけの思考、紙面上だけの作業では理解しにくいものです。

- そこで、
- ・ 自分の生活と関連づけ、他者とも交流しながら学習します。
 - ・ 手を使って「もの」にはたらきかけたり、目や耳・舌などの五官を使って実物にふれたり、調査活動をしったりするなど、体験を通して具体的に学習します。

1 学習の計画（どのような内容を、どの時期に学ぶのかを含む）

	学習内容（単元名）	学習のねらい
1 学期	1 人生を見通し共に生きる ①生涯発達と家族 ②子どもの生活と保育 ③高齢期の生活と福祉	・ 人の一生を生涯発達の視点でとらえ、家族や家庭生活の在り方、男女が協力して家族の一員としての役割を果たし家庭を築くことの重要性について認識する。
2 学期	2 生活を営む ①食生活と健康 ②衣生活と健康 ③住生活と住環境	・ 家族の衣食住生活に必要な知識と技術を学び、家族の生活を健康で安全かつ快適に営むことができるようにする。 ・ 実習において、知識・技術を身につける。
3 学期	3 生活をつくる ①消費生活と意思決定 ②持続可能なライフスタイルと環境	・ 家庭経済や消費生活に関する基礎的な知識を学び、現代の消費生活の課題を理解し、消費者として責任を持って行動できるようにする。

2 評価の観点・方法（及び年間の評定）

知識・技能	授業の取り組み、定期考査
思考・判断・表現	授業の取り組み、レポート、課題への取り組み
主体的に学習に取り組む態度	発表や発問に対する実践、授業態度

1年間の評価は、1～3学期の年間を通じて、上記の内容を総合的に判断して決定します。

家 庭 総 合

教科	家 庭	単位数	4	年次・学科	1 年次 総合生活科
使用教科書	「未来へつなぐ家庭総合365」（教育図書）			教育課程	三・四修制
副教材等	家庭科55資料集（教育図書）・被服製作に必要な裁縫道具類				

「家庭総合」で学ぶこと（科目の概要と到達目標）

・人の一生と家族・家庭、子どもや高齢者のかかわりと福祉、消費生活、衣食住などに関する知識と技術を総合的に習得させ、家庭や地域の生活課題を主体的に解決するとともに、生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てます。

「家庭総合」でつきたい力（わかります。できます。やります。）

- ①簡単な調理、ゴミの分別、部屋の掃除、自分の衣服管理が出来ます。
- ②家族の一員として、家庭内の役割を担うことが出来ます。
- ③手縫い、ミシン等で簡単な作品が製作することが出来ます。

「家庭総合」で大切なこと（学び方や取り組みの姿勢など）

- ・男女が共同・平等に参画する視点から学びます。
- ・自分の生活、他教科で学んだことと関連づけながら学びます。
- ・手や五官を使って体験を通して具体的に学びます。

1 学習の計画（どのような内容を、どの時期に学ぶのかを含む）

	学習内容（単元名）	学習のねらい
1 学期	ホームプロジェクト・学校家庭クラブ活動 ・生涯の生活設計1 ・青年期の自立と家族・家庭 ・食生活と健康	・ホームプロジェクトや学校家庭クラブの意義を理解し実践する。 ・青年期の生き方、家族、家庭、家族法について学ぶ。 ・食物調理4級検定を受験し、調理の基礎的技術を習得する。 ・健康で豊かな人生を送るために、食生活のあり方を考える。
2 学期	・子どもの生活と保育 ・共生社会と福祉 ・高齢期の生活と福祉 ・衣生活と健康	・親としての心構えや子育てを支援する社会の仕組みについて学ぶ。 ・共生社会を実現するための方法を学ぶ。 ・高齢期の健康や生活について理解し、生活の介助の方法を学ぶ。 ・被服製作4級検定を受検し、被服の基礎的技術を習得する。 ・エプロンを製作する。
3 学期	・住生活と住環境 ・持続可能なライフスタイルと環境 ・消費生活と意思決定 ・生涯の生活設計2 ・食生活と健康	・心地よい住まい・住まいと地域・社会の関わりについて学ぶ。 ・資源や環境に配慮した生活について考える。 ・適切な消費行動、家計管理を行うための知識を身につける。 ・学んだ知識、技術を基に、自分らしいライフスタイルを設計する ・調理実習を通し、調理の基本的技術を習得する。

2 評価の観点・方法（及び年間の評定）

評価は次の3つの観点から行います

知識・技能	定期考査、製作物、ファイル
思考・判断・表現	意見発表や発問に対する応答、授業時の反省・評価・感想
主体的に学習に取り組む態度	授業態度、実習態度、ホームプロジェクト、学校家庭クラブ活動

1年間の評価は、1～3学期の年間を通じて、上記の内容を総合的に判断して決定します。

〔8〕農業（生産科学科）の学習

農業と環境

教科	農業	単位数	2	年次・学科	1年次・生産科学科
使用教科書	農業と環境（農文協）			教育課程	三・四修制
副教材等	プリント（ファイル）				

「農業と環境」で学ぶこと

- ・農業生物としてイネを育てることで、農業と環境に関する基礎的な知識や技術を身に付けます。
- ・農業生物の観察や記録を行うことにより、科学的に物事を考え、プロジェクト学習の手法を身に付けます。
- ・食料生産だけでなく、環境を保全するなど農業の様々な役割について学習します。



「農業と環境」でつきたい力（わかります、やります）

- ①もみまき、田植え、除草、稲刈りを実際に体験し、稲作の苦勞がわかります。
- ②イネの草丈や茎数が正確に計れ、生育調査結果をグラフに表し、品種ごとの生育の違いがわかります。
- ③もみ1粒^{いちりゅうじゅう}重^{はつがりつ}や発芽率^{とうじゅくぶあい}などの計算方法がわかり、正しく計算できます。
- ④もみ数を正しく数え、重さを正確に計り、収量調査を正しく行えます。
- ⑤自分で育てたお米を食すことにより、食と命についてわかります。
- ⑥日本の食料自給率の現状がわかります。
- ⑦身近な環境の現状と農業の関わりがわかります。

「農業と環境」で大切なこと（学び方や取組の姿勢など）

- ・実習や実験では、常に正確な観察や記録をすることが大切です。
- ・先生の説明をしっかりと聞くことが大切です。特に実験や実習においては内容をしっかりと確認し安全に気を付けて取り組むことが大切です。
- ・自分の責任を果たし、班の仲間と協力して実習や観察に取り組むことが大切です。
- ・毎時間の学習をプリントにより確認します。

1 学習の計画（どのような内容を、どの時期に学ぶのかを含む）

	学習内容（単元名）	学習のねらい
1学期	○農業と環境の基礎学習 ＜土壌や身近な植物＞ ○栽培の基礎学習＜イネの栽培＞ ・苗作り ・本田の準備と田植え、生育管理 ○農業クラブ	・農業と環境との関わりに興味をもち、イネの栽培や生育調査に取り組み、作物としてのイネの特徴を理解し、基本的な栽培方法を身に付ける。また、プロジェクト学習の基本を習得する。 ・農業クラブ活動の目的や内容を理解し、積極的に活動に取り組めるようにする。
2学期	○栽培の基礎学習＜イネの栽培＞ ・収穫と調製 ・収量調査とまとめ	・稲刈りや脱穀などの作業を体験し、収量調査により、学習のまとめをおこない、考察できるようにする。
3学期	○地域の農業と環境問題 ・環境調査や基礎実験	・食と命の関係について考える。 ・農業の様々な役割について理解する。

2 評価の観点・方法（及び年間の評定）

知識・技能	授業の取り組み、考查
思考・判断・表現	授業の取り組み、課題、レポート、実習記録
主体的に学習に取り組む態度	実習記録、発言や協働姿勢、服装、自己評価

1年間の評価は、1～3学期の年間を通じて、上記の内容を総合的に判断して決定します。

総 合 実 習

教科	農 業	単位数	2	年次・学科	1 年次・生産科学科
使用教科書	農業と環境（農文協）			教育課程	三・四修制
副教材等	総合実習記録ファイル、実習手帳				

「総合実習」で学ぶこと（科目の概要と到達目標）

- ・お茶の栽培管理方法を実際に圃場で学習します。
- ・野菜の栽培など、栽培についての基礎的・基本的な知識や技術を学習します。
- ・栽培によって生産された、お茶や野菜などの加工方法を学習します。
- ・総合実習の学習をとおして、体験的な学習の基礎基本を身に付けます。



「総合実習」でつきたい力（分かります・やります）

- ①茶の栽培や茶摘みの方法がわかり、おいしいお茶の条件がわかります。
- ②野菜などの栽培の基本がわかり、収穫することができます。
- ③除草の意義や方法がわかり、農具を使いきれいに除草することができます。
- ④農具の使い方がわかり、安全に作業を進めることができます。

「総合実習」で大切なこと（学び方や取組の姿勢など）

- ・時間に遅れないように正しい服装で集合し、安全に実習を進めます。
- ・実習に適した農具などを正確かつ能率良く使うための技術を身に付けます。
- ・実習を安全かつ能率的に進めるため、実習内容の説明をよく聞いて正しく作業ができる。

1 学習の計画（どのような内容を、どの時期に学ぶのかを含む）

	学習内容（单元名）	学習のねらい
1 学期	・オリエンテーション ・部門別の実習内容（茶園、栽培、加工）	・総合実習とは何かを理解します。 ・部門別の実習と内容を理解します。 ・茶摘みの方法を身に付けます。
2 学期	・加工実習 ・栽培管理 ・茶園管理	・お茶ジャムの製造方法を身に付けます。 ・露地野菜の栽培管理について実習します。 ・除草など茶の木の管理方法を身に付けます。
3 学期	・加工実習 ・茶園管理	・野菜や果樹を用いたジャム製造方法を身に付けます。 ・茶園の施肥や土壌改良、茶木の整枝などの実習をします。

2 評価の観点・方法（及び年間の評定）

知識・技能	授業の取り組み、考査
思考・判断・表現	授業の取り組み、課題、レポート、実習記録
主体的に学習に取り組む態度	実習記録、発言や協働姿勢、服装、自己評価

1 年間の評価は、1～3学期の年間を通じて、上記の内容を総合的に判断して決定します。

農 業 と 情 報

教科	農 業	単位数	2	年次・学科	1 年次・生産科学科
使用教科書	農業と情報（実教出版）			教育課程	三・四修制
副教材等	プリント				

「農業情報処理」で学ぶこと（科目の概要と到達目標）

- ・社会における情報化の進展と情報の意義や役割を理解し、情報処理に関する知識と技術を身に付けます。
- ・パソコンを利用した体験的な学習を通して、情報を選択し活用する能力と態度を身に付けます。

「農業情報処理」でつけたい力（わかります、やります）

- ①パソコン本体や周辺機器の名称がわかり、正しく使用することができます。
- ②ローマ字50音表がわかり、ワードプロセッサでローマ字入力ができます。
- ③ワードプロセッサを使って、文書を作成することができます。
- ④使用目的に合ったアプリケーションソフトがわかり、選択できます。
- ⑤パワーポイントを使用して、調べたデータをまとめ、発表することができます。
- ⑥高度情報通信社会で注意すべきことがわかり、普段の生活に活かすことができます。
- ⑦農業機器とプログラム制御の基礎を学習します。

「農業情報処理」で大切なこと（学び方や取組の姿勢など）

- ・パソコン室の使用の規則を守り、正しく使用します。
- ・授業に積極的に取り組むことで、文書作成や情報処理の技術を身に付けます。
- ・授業の中で、友人と教え合い学ぶ姿勢を大切にします。
- ・毎時間の学習をプリントにより確認します。

1 学習の計画（どのような内容を、どの時期に学ぶのかを含む）

	学習内容（单元名）	学習のねらい
1 学 期	・情報の基礎 ・日本語ワードプロセッサの利用	・コンピュータのしくみについての基礎的な知識や情報モラルを身に付ける。 ・ワープロの基本操作を身に付け、簡単な文書の作成をする。
2 学 期	・情報システム ・表計算ソフトウェアの利用	・自分たちの生活の中の情報システムについて知り、情報の正しい使い方を学習する。 ・表計算ソフトウェアの基本操作を身に付け、表やグラフの作成をする。
3 学 期	・マルチメディアとプログラム ・プレゼンテーションソフトウェアの利用	・マルチメディア社会の注意点を知る。 ・農業機器と制御について実践する。 ・プレゼンテーションソフトの基本操作を身に付け、学習の成果を発表する。

2 評価の観点・方法（及び年間の評定）

知識・技能	授業の取り組み、考査
思考・判断・表現	授業の取り組み、課題、レポート
主体的に学習に取り組む態度	実習記録、発言や協働姿勢、自己評価、資格取得

1 年間の評価は、1～3学期の年間を通して、上記の内容を総合的に判断して決定します。

〔 9 〕 家庭（総合生活科）の学習

生活産業基礎

教科	家 庭	単位数	2	年次・学科	1 年次・総合生活科
使用教科書	「生活産業基礎」（実教出版）			教育課程	三・四修制

「生活産業基礎」で学ぶこと（科目の概要と到達目標）

- ・専門学科の基礎科目として、専門科目の学習への動機付けとなる科目です。
- ・生活と産業とのかかわりについて理解し、生活に関連する職業などへの関心を高めるとともに必要な知識と技術を進んで習得しようとする意欲と態度を身に付ける科目です。

「生活産業基礎」でつけたい力（わかります。できます。やります。）

- ①自分の生活と産業の関わりが分かります。
- ②社会の変化と生活産業の関わりが分かります。
- ③生活に関連する職業の種類、業務内容、特徴などが分かります。
- ④将来の職業に希望を持ち、これからの学習プランを立てることができます。
- ⑤夢の実現へ向けて頑張る気持ちを高めることができます。

「生活産業基礎」で大切なこと（学び方や取り組みの姿勢など）

- 家庭科の学習は、知識の暗記や頭の中だけの思考、紙面上だけの作業では理解しにくいものです。そこで、
- ・自分の生活を振り返り、生活に関わる各種調査を基に調べ学習をします。
 - ・産業現場等の見学を取り入れ、具体的・体験的に学習します。
 - ・職業における職業資格の意義について学習します。

1 学習の計画（どのような内容を、どの時期に学ぶのかを含む）

	学習内容（単元名）	学習のねらい
1 学期	1 生活産業を学ぶ 2 生活の変化に対応した商品・サービスの提供	・生活と生活産業の関わりを理解する。 ・生活の変化に伴う消費者のニーズなどの調査を通して理解する。
2 学期	3 食生活関連分野の産業と職業 4 衣生活関連分野の産業と職業 5 住生活関連分野の産業と職業 6 ヒューマンサービス関連分野の産業と職業	・各生活関連産業の種類を理解する。 ・各生活関連産業の調べ学習を通して、職業の業務内容や特徴について理解する。 ・職場見学を通して働くことの意義や、厳しさなどを、具体的に体験的に理解する。
3 学期	7 職業生活と自己実現	・専門科目の学習への興味・関心を深めるとともに主体的に学習する実践的態度を身に付ける。 ・夢の実現に向けての具体的な学習プランを立てることができる。

2 評価の観点・方法（及び年間の評定）

評価は次の3つの観点から行います

知識・技能	定期考査、レポート・ファイル提出内容
思考・判断・表現	意見発表や発問に対する応答、授業時の反省・評価・感想
主体的に学習に取り組む態度	授業態度、実習態度、レポート・ファイル提出状況

1 年間の評価は、1～3学期の年間を通じて、上記の内容を総合的に判断して決定します。

生活産業情報

教科	家 庭	単位数	2	年次・学科	1年次・総合生活科
使用教科書	「生活産業情報」（実教出版）			教育課程	三・四修制

「生活産業情報」で学ぶこと（科目の概要と到達目標）

1. 生活産業分野における情報の意義や役割、情報を活用する方法を理解し、それに関連する技術を身に付けます。
2. 情報通信ネットワークの仕組みを理解し、正しく情報を取り扱える情報モラルを身に付けます。

「生活産業情報」でつきたい力（わかります。できます。やります。）

- ①パソコン本体や周辺機器の名称がわかり、正しく使用することができます。
- ②ローマ字表記がわかり、ワードプロセッサでローマ字入力ができます。
- ③ワードプロセッサを使用して、文書を作成することができます。
- ④表計算ソフトやプレゼンテーションソフトを操作し活用することができます。
- ⑤高度情報通信社会で注意すべきことがわかり、情報を活用することができます。

「生活産業情報」で大切なこと（学び方や取り組みの姿勢）

- ・パソコン実習室の使用規則を守り、正しく使用します。
- ・授業に積極的に取り組むことや繰り返し練習をすることで、技術の向上を目指します。
- ・正しい情報モラルやマナーを身に付け、実生活においても責任ある行動ができる。

1 学習の計画（どのような内容を、どの時期に学ぶのかを含む）

	学習内容（単元名）	学習のねらい
1 学 期	1. 情報化の進展と生活産業 2. 情報モラルとセキュリティ	・情報化の進展に伴う生活や産業の変化とその問題点について理解する。 ・高度情報処理社会におけるルールやマナー、問題点について理解する。
2 学 期	4. 生活産業におけるコミュニケーションと情報デザイン	・日本語ワードプロセッサの操作方法を習得し活用できるようにする。 ・表計算ソフトやプレゼンテーションソフトの基本的操作技術を身に付ける。
3 学 期	3. コンピュータとプログラミング	・アルゴリズムとプログラミングの仕組みを理解する。

2 評価の観点・方法（及び年間の評定）

評価は次の3つの観点から行います

知識・技能	定期考査、成果物、実習記録
思考・判断・表現	成果物、ワークシート
主体的に学習に取り組む態度	授業態度、出席状況、実習記録

1年間の評価は、1～3学期の年間を通じて、上記の内容を総合的に判断して決定します。